

帯広市都市計画審議会

令和7年度 第2回 議事概要

日 時：令和8年2月6日(金)

10時30分～11時15分

場 所：帯広市役所10階 第5B会議室

令和7年度 第1回 帯広市都市計画審議会 議事概要

日 時：令和8年2月6日（金曜日）10時30分～11時15分

場 所：帯広市役所10階 第5B会議室

出席委員：岩本会長、河西副会長、神田委員、工藤委員、木幡委員、佐々木委員
関口委員、播磨委員、福原委員、紅葉委員、吉田（昌）委員
（以上11名）

事務局：篠原都市環境部長、川角都市建築室長

（都市政策課）中田都市政策課長、朝野都市政策課主幹、中島都市政策課長補佐、
近藤主任、川筋主任補

傍聴者等：報道関係者 2名

配布資料：会議次第、委員名簿、座席表、立地適正化計画の策定の取組み状況について（資料1）
帯広市都市計画に関するアンケート調査（別添1）
帯広市都市計画に関する高校生アンケート調査（別添2）

【次第】

- 1 開 会
- 2 部長挨拶
- 3 議 題
（1）報告事項
ア 立地適正化計画の策定の取組み状況について
- 4 閉 会

【議事概要】

3 議題

○議題 立地適正化計画の策定の取組み状況について

－事務局より資料1に基づいて説明－

○委員からの意見、質問等

（委員）

他都市視察（富山市）では路面電車で拠点を結ぶ考え方が示されていた。帯広市の公共交通では、運転手不足や厳しい経営環境もあるが、公共交通に対する支援や補助などについて市としてどう考えるか。

（事務局）

バスの利用者数が減少しており、バス路線維持は厳しく、現在も市として補助を行っている状況。今後すべてのバス路線を維持することは難しい状況だと思われる。市としては必要路線を維持できるよう支援を継続したい。

(委員)

様々な自治体で、全国ではコミュニティバスやAI オンデマンド交通等も活用されている。帯広でも検討するのか。

(事務局)

AI オンデマンド交通は全国的に広がりつつあり情報収集している。一方でシステム・車両・人員等のコストが大きく、需要予測を精緻に行わないと負担増となる事例もあるため、慎重に検討したい。

(委員)

帯広には良好な自然環境があるが、現時点の資料では「自然環境」という言葉が使われていない。人口減少で空間ができたとき、防災と結び付けて自然環境・景観を生かしたインフラ整備を誘導していくと良いのでは。

(会長)

今後の検討に対する、意見として承った。

(委員)

エリア分けにより機能配置されることで導線やコンセプトは定めやすくなる一方、用途地域変更を含め「これまで建てられたものが建てられなくなる」等の懸念もある。作成中の案に期待する。

(会長)

今後の検討に対する、意見として承った。

(委員)

帯広の森計画以来のコンパクトなまちづくりの流れも踏まえ、帯広の「中心」をどこに据え、どの範囲内でどう配置するかが重要。高校生の声として、中心部でバス待ちの時間に勉強できる場所を求める声もあるため、世代ごとに集まる拠点づくりも計画作成にあたって必要ではないか。今後の計画案に期待している。

(会長)

帯広・十勝は急激な人口増減が他都市ほど顕在化していないが、十勝圏域内の移動が多い中で周辺市町村の人口減少により、今後急速に人口減少が進む可能性もある。人口推計は楽観せず、将来の予算措置等も見据え、厳しめに見積もりつつ検討してほしい。

4 閉会

(会長)

全体を通して、質問、意見はないか。

(意見なし)

(事務局)

今後の都市計画審議会の開催予定については、立地適正化計画案を、素案から順次作成し、都度、審議会に意見を伺う予定。次回は来年度に入り、日程調整のうえ開催予定。

(会長)

それではこれをもって、本日の審議会を閉会する。